

報告③ 障害者雇用支援月間 販売会&シブジウム

9月は障害者雇用支援月間でした。渋谷区では9月11日(火)に区内の13事業所が集まる自主製品販売会と、障がい者雇用について考えるシンポジウムが開催されました。

●自主製品販売会

渋谷区仮庁舎で行なわれた販売会では、普段多くの事業所が一堂に会する機会はなかなか無いため、販売員として参加したメンバー達も他の事業所の顔見知りのメンバーに会えて嬉しそうにしていました。渋谷区長を含めたくさんの区職員の方達も買いに来て下さり、おかし屋ぱれっとのパウンドケーキはすぐに完売！販売会全体の売上は去年よりも7万円アップの31万8,200円と大盛況でした。

●新しい働き方をデザインする

美竹の丘・しぶやで開催されたシンポジウムのテーマは「超短時間雇用という新しい働き方のデザイン」。

初めに東京大学先端科学技術研究センター近藤武夫准教授が「超短時間雇用 IDEA モデル(※)」を紹介しました。今の日本の雇用はフルタイムが前提であったり、職務がはっきりしていない(暗に様々な業務に対応・適応することを求められる)ことが多く、障がい者や働きたいが何らかの事情がある人にとっては、雇用に参加するハードルが高くなっています。

そこで「超短時間雇用」では…

- ①雇用時に職務が明確に決まっている
(例：企業内の一つの部署専任で、報告書の翻訳作業のみを担当する)
- ②1日に30分間等超短時間から働ける
- ③業務以外のことは柔軟に配慮する

(例：身だしなみやコミュニケーション等苦手な面があっても、業務上問題がなければ考慮される)

④他の社員と同じ場所で一緒に働く

としています。この取り組みを実施した企業や区市町村では、より多くの障がい者が雇用に参加しやすくなり実績を上げています。そして企業側としても、部署内で担当がはっきりしない等の滞っていた業務を明確にし、それを超短時間雇用の人達に担ってもらうことで解消できるという大きな効果が見られたということです。

次に渋谷区の事例報告として、区内で行なわれている超短時間就労の例、区役所内実習、臨時職員採用等ステップアップ就労の紹介がありました。

●トークセッション

シンポジウム後半は「障がい者の新しい仕事の選択肢を作るための公開型本音トークセッション」として、近藤氏、障害者就労支援事業所、企業、渋谷区障害者福祉課、それぞれの立場のスピーカーが、シンポジウム参加者も巻き込んで現状を語り合い、超短時間雇用を含めた障がい者雇用の在り方を探りました。

●最後に…シンポジウム参加者の感想

▶ぱれっと理事・株式会社デンソーセールス

藤井志保氏

『一般就労で「才能を活かす」、また企業の生産性を上げる仕組みとして、超短時間勤務が効果を出している事例を知る事が出来てよかったです。言葉の力は偉大で“新しい働き方をデザインする”というアプローチに可能性を感じました。』

(おかし屋ぱれっと 松本亜沙子

工房ぱれっと 村井沙和子)

※超短時間雇用 IDEA モデル…IDEA は Inclusive(包括的) and Diverse(多様な) Employment(雇用) with Accommodation(配慮)の略 IDEA プロジェクトについて詳しくは→<http://ideap.tokyo/>